

オルガノ株式会社

2022年3月期 決算説明会資料

(証券コード : 6368)

2022年5月19日

目次

1. 2022年3月期 通期実績
2. 2023年3月期 通期計画
3. 中期経営計画
4. 会社概要

目 次

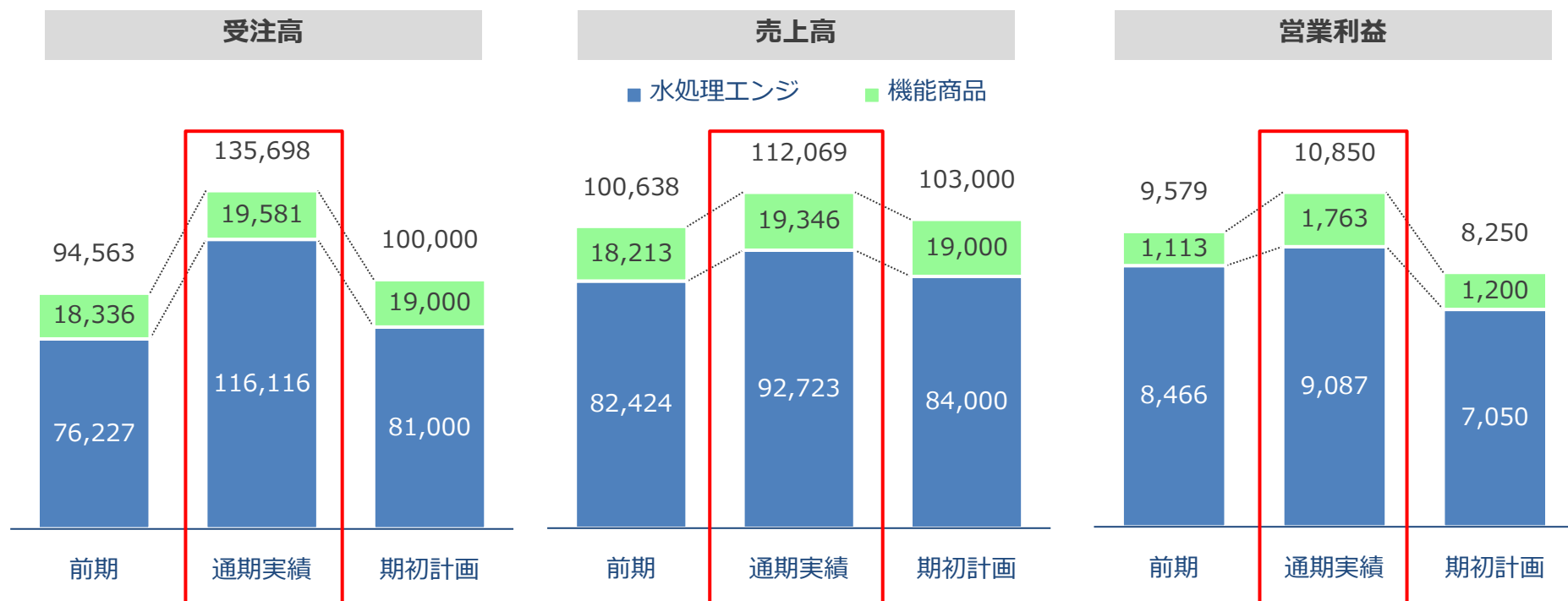
1. 2022年3月期 通期実績
2. 2023年3月期 通期計画
3. 中期経営計画
4. 会社概要

22年3月期通期実績：概況

受注高・売上高・営業利益とも過去最高を更新

水処理エンジニアリング事業は国内外で相次ぐ半導体関連の大型プロジェクトが寄与
機能商品事業は水処理薬品や小型機器などの販売が好調に推移

(単位：百万円)



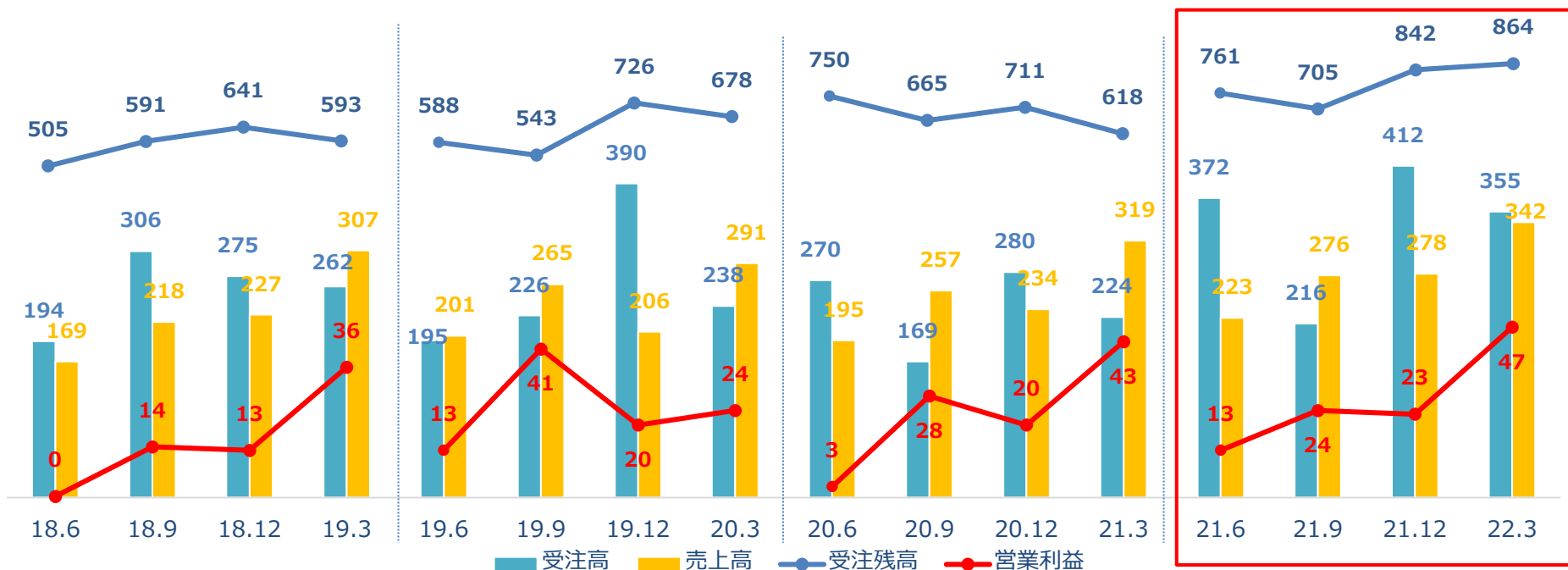
22年3月期：四半期間毎の業績推移

22年3月期は受注が高水準で推移、売上也順調に進捗

受注高の増減は大型案件の契約動向に大きく影響される
 売上・利益は納期が重なる第4四半期に集中する傾向あり

(単位：億円)

四半期間(3か月)毎の業績推移 (受注高・売上高・受注残高・営業利益)



22年3月期：事業分野別概況

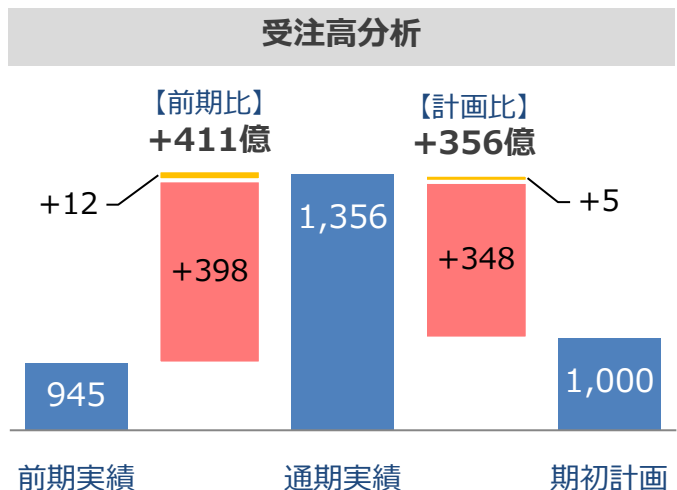
電子産業 分野	国内・台湾に続き中国・米国でも大型プロジェクトを受注 一部の案件では原材料不足などサプライチェーンの混乱が 影響も全般的には順調に工事が進捗し売上も拡大
一般産業 分野	コロナ禍による大型投資減に加え、電子産業分野への リソース集中で大型プラントの売上は減少も ソリューション事業を中心に堅調、収益性も改善
電力・上下水 分野	設備の更新需要やソリューション事業など 国内を中心に堅調な推移が続く
機能商品 事業	水処理薬品は電子産業向けの各種処理剤の販売増加 小型純水装置は医療・研究機関向けの販売回復し、 新製品「ピューリックμ(ミュー)」の販売も順調にスタート 食品事業はほぼ前年並の水準にとどまる

22年3月期通期実績：損益計算書

(単位：百万円)	21.3 実績	22.3 実績	22.3 期初計画	前期比 (%)	計画比 (%)
受注高	94,563	135,698	100,000	+43.5%	+35.7%
売上高	100,638	112,069	103,000	+11.4%	+8.8%
売上総利益 (%)	26,326 26.2%	28,512 25.4%	26,250 25.5%	+8.3%	+8.6%
販管費	16,746	17,662	18,000	+5.5%	-1.9%
営業利益 (%)	9,579 9.5%	10,850 9.7%	8,250 8.0%	+13.3%	+31.5%
経常利益	9,900	11,545	8,150	+16.6%	+41.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,074	9,210	6,500	+30.2%	+41.7%
ROE (%)	11.1%	12.9%	9.3%	—	—

22年3月期通期実績：受注高・売上高分析

(単位：億円)



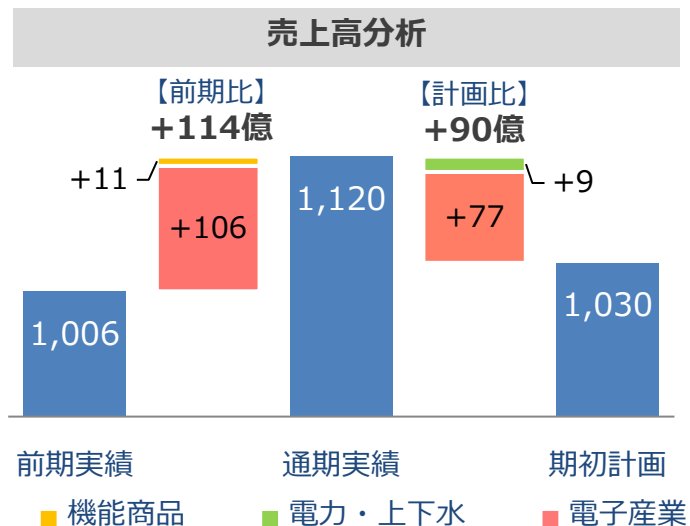
【受注高】

前期比：+411億 (43.5%増)

電子産業は国内外で大型投資が続き拡大
機能商品は前年の減少から回復

計画比：+356億 (35.7%増)

電子産業は案件の件数・規模が想定以上に拡大
機能商品は水処理薬品や小型機器が好調



【売上高】

前期比：+114億 (11.4%増)

電子産業は大型案件の工事進捗により売上増
機能商品は水処理薬品や小型機器が好調

計画比：+90億 (8.8%増)

電子産業は受注好調で売上も増加
電力・上下水は国内のソリューション堅調

22年3月期通期実績：地域別受注高

受注高は国内外とも電子産業分野を中心に大幅伸長

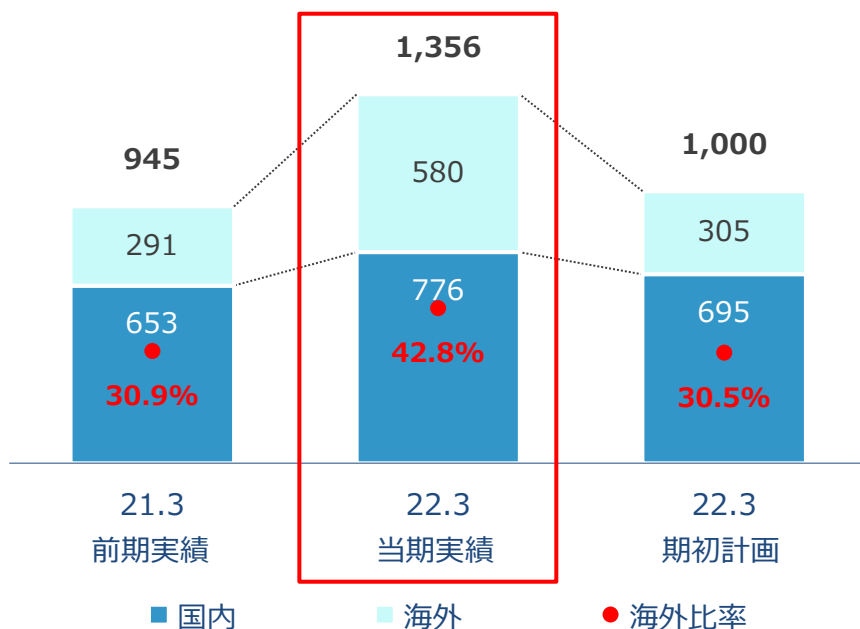
国内：主要顧客の増設案件に加え、パワー半導体・ウェハーなども投資増

海外：活発な台湾に加え、中国・米国での大型案件受注が寄与

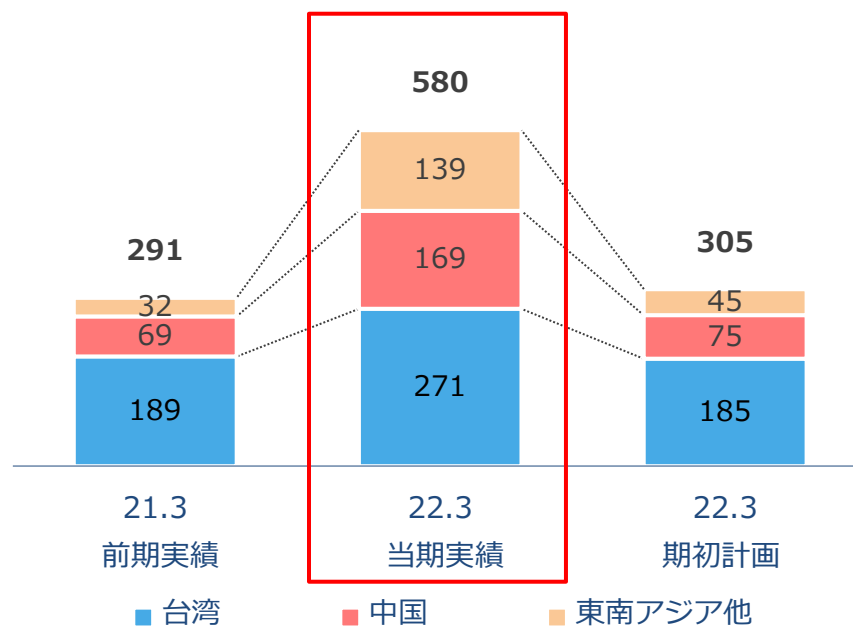
※米国案件は東南アジア他を含む

(単位：億円)

受注高：国内・海外



受注高：海外地域別



22年3月期通期実績：地域別売上高

売上高は台湾・中国の半導体案件など海外中心に拡大

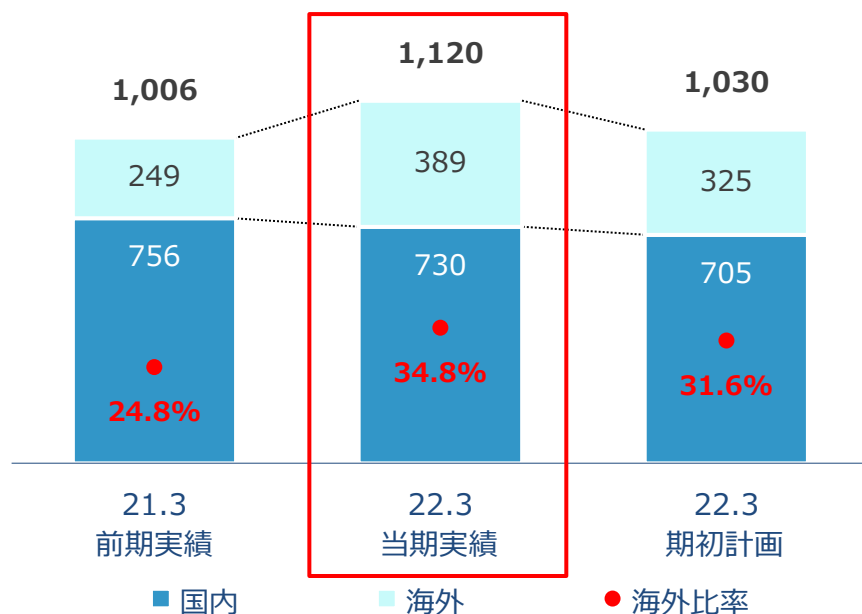
国内：受注した半導体関連の大型案件の工事が順調に進捗

海外：台湾に加え、電子産業分野の受注拡大した中国が大幅に伸長

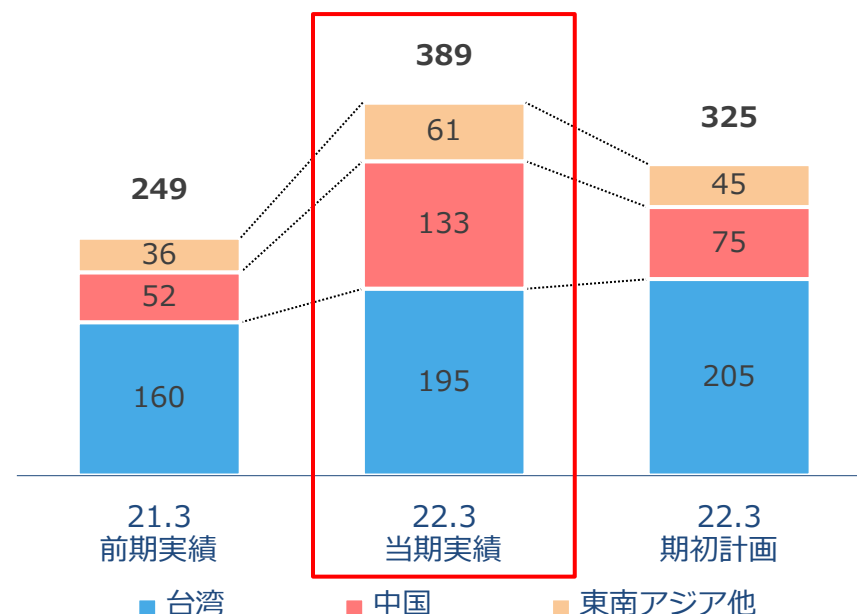
※米国案件は東南アジア他を含む

(単位：億円)

売上高：国内・海外



売上高：海外地域別



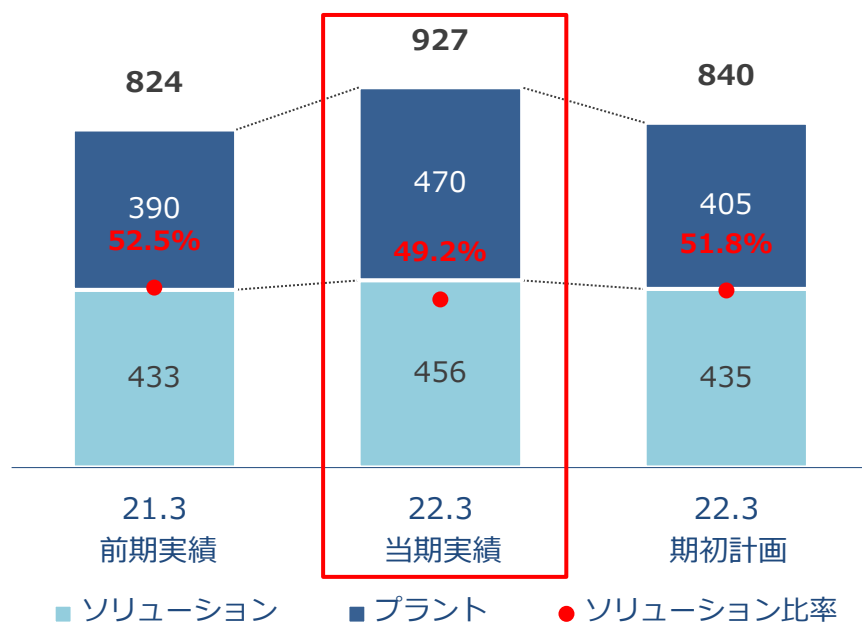
22年3月期通期実績：水処理エンジ事業売上高

水処理エンジ事業は電子産業のプラント中心に売上拡大

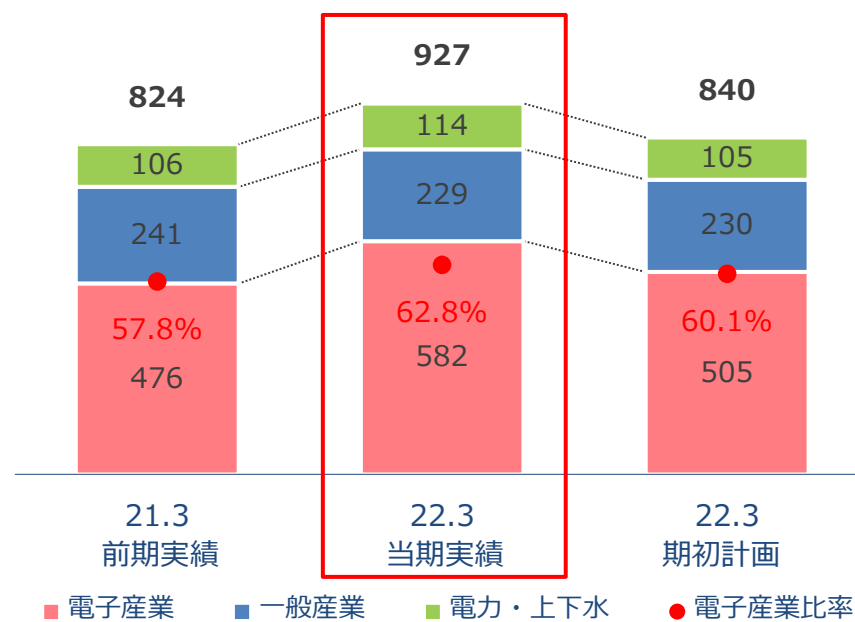
プラントは国内外の半導体大型プロジェクトの売上が大きく寄与
ソリューションは電子産業に加え一般産業・電力上下水分野も堅調に推移

(単位：億円)

水処理エンジ売上高：プラント・ソリューション



水処理エンジ売上高：市場分野別



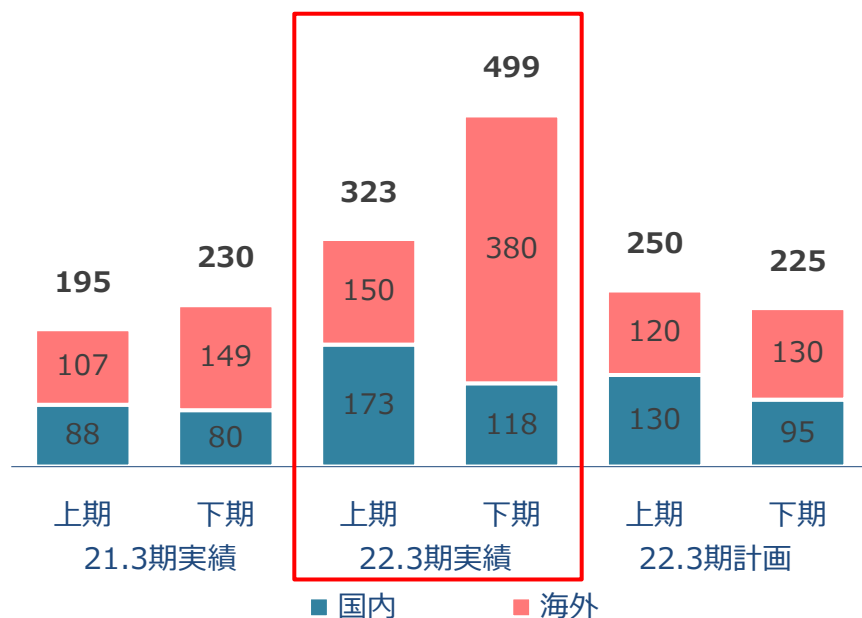
22年3月期通期実績：電子産業分野受注高

電子産業分野は台湾・中国・米国など海外中心に大幅伸長

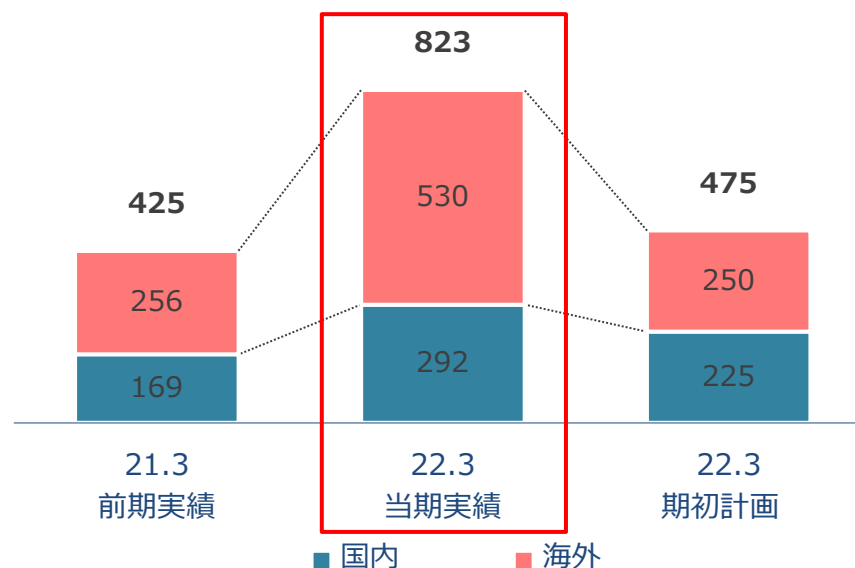
国内は主要顧客の増設案件に加え、パワー半導体やウェハー等の案件増
海外は主力市場の台湾に加え、中国・米国で大型の半導体案件を受注

(単位：億円)

電子産業分野：受注高（上下比較）



電子産業分野：受注高



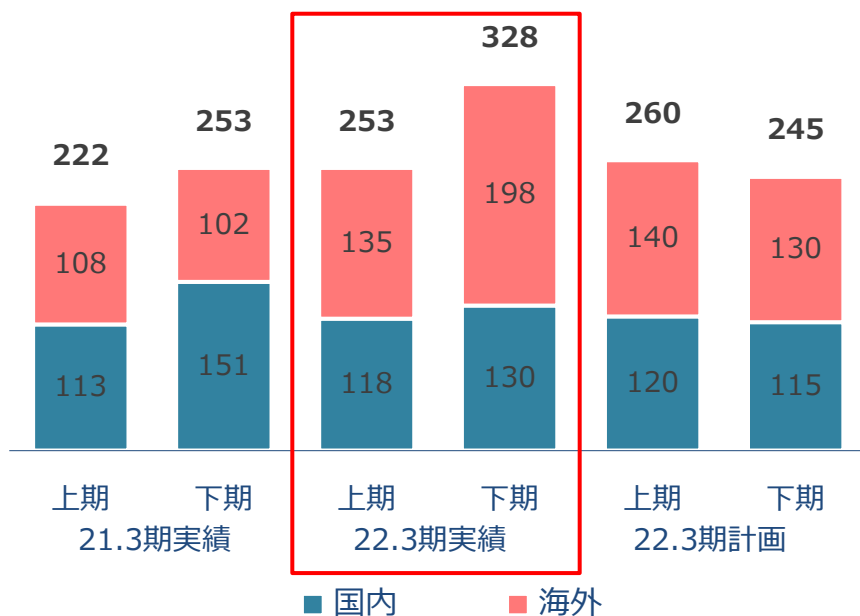
22年3月期通期実績：電子産業分野売上高

受注案件の工事進捗により国内・海外で売上が伸長

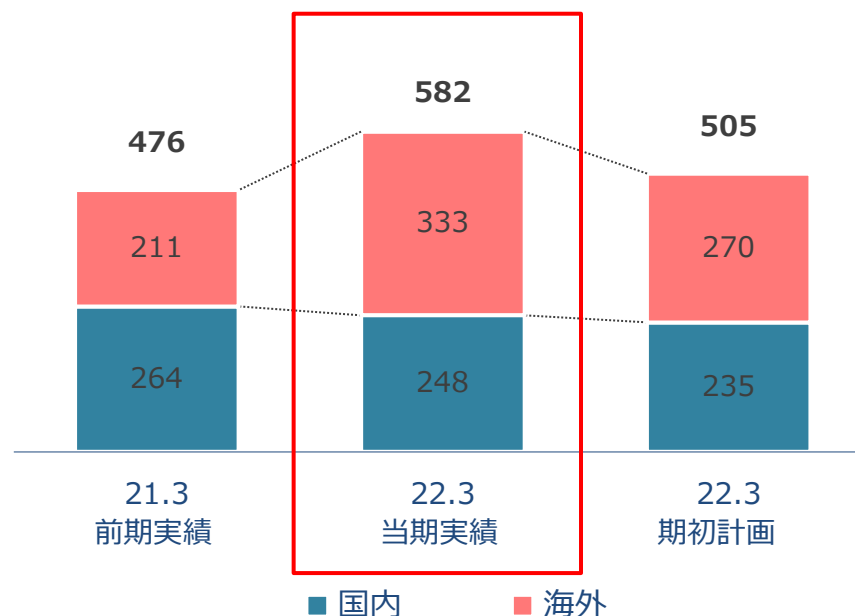
国内はプラント案件の工事が順調に進捗、ソリューション売上も拡大
海外は一部の案件で工程見直しが影響も受注増により売上も増加

(単位：億円)

電子産業分野：売上高（上下比較）

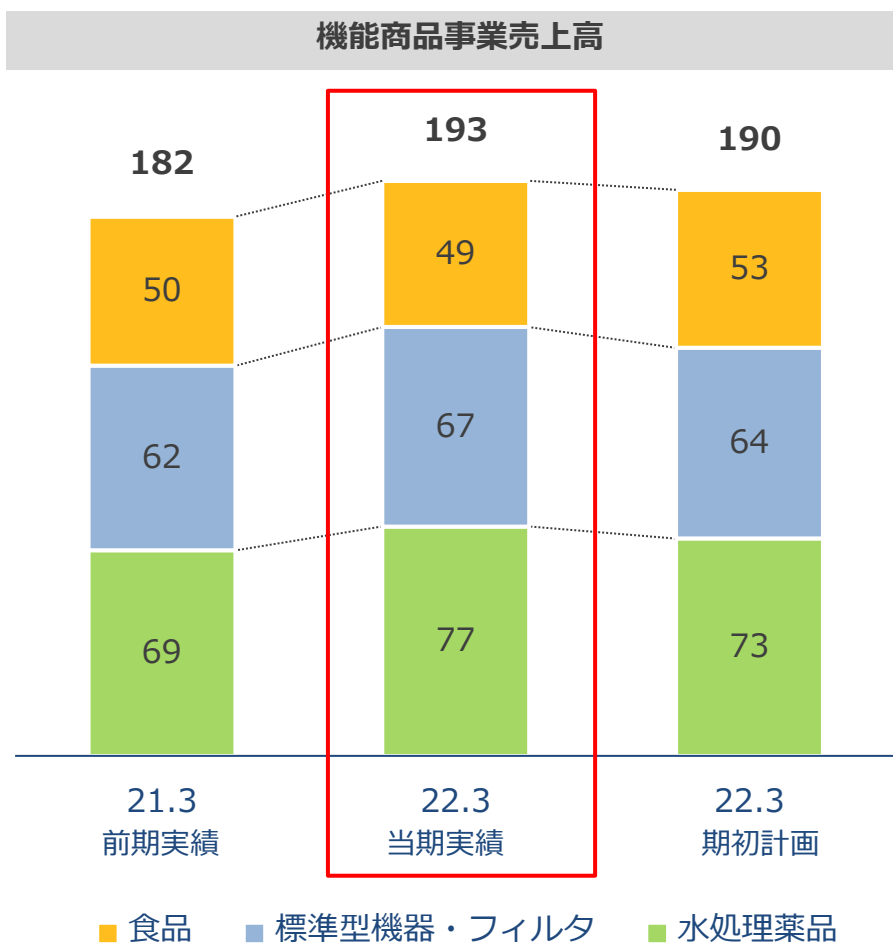


電子産業分野：売上高



22年3月期通期実績：機能商品事業売上高

(単位：億円)



■ 水処理薬品

電子産業向けの販売が好調に推移したことに加え、一般産業分野でも顧客の生産活動が活発に推移し、排水処理剤などの販売も拡大

■ 標準型水処理機器・フィルタ

医療・研究機関などに向けた小型純水装置の販売が前年から回復。新たに上市した小型超純水装置「ピューリックμ（ミュー）」の販売も順調にスタート。

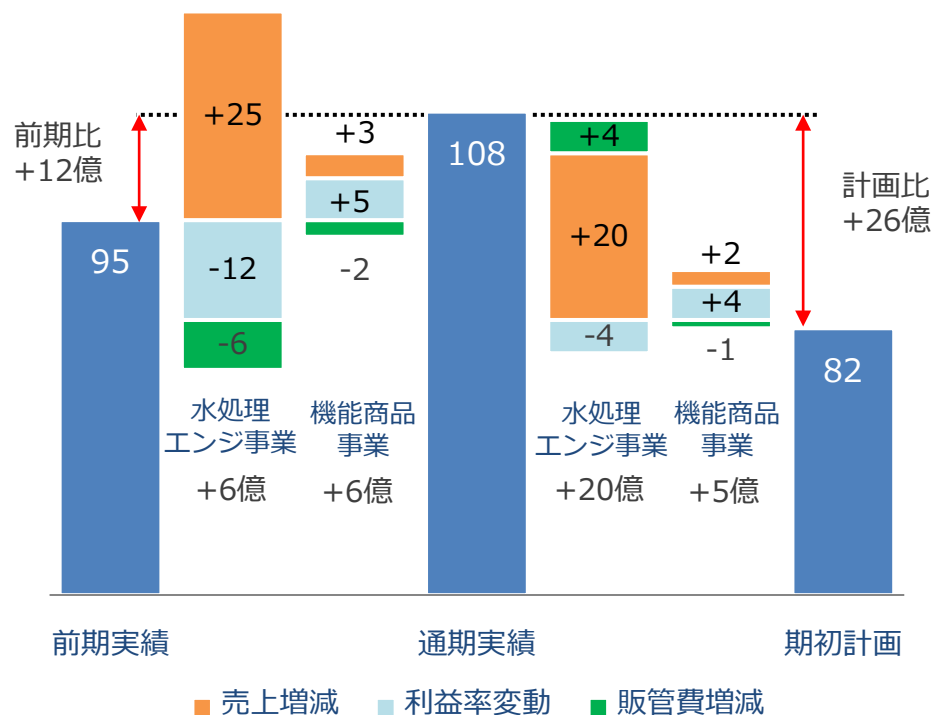
■ 食品

前年に比べた外食市場などに向けた製品の販売が回復したものの、家庭用食品に向けた製品が減少するなど前年並の結果に

22年3月期通期実績：営業利益分析

(単位：億円)

営業利益分析



■ 前期比：+12億（13.3%増）

■ 水処理エンジニアリング事業：+6億（7.3%増）

プラント比率増加によって利益率は若干低下も売上増の効果で売上総利益は増加、販管費は人件費など中心に拡大

■ 機能商品事業：+6億（58.4%増）

売上の回復に加え、比較的採算良い製品の販売が好調に推移、製造経費の削減も進み利益率改善

■ 計画比：+26億（31.5%増）

■ 水処理エンジニアリング事業：+20億(28.9%増)

受注が想定を上回ったことで売上も拡大、計画比では増収効果が影響

■ 機能商品事業：+5億（47.0%増）

売上増・利益率改善により計画比増

目次

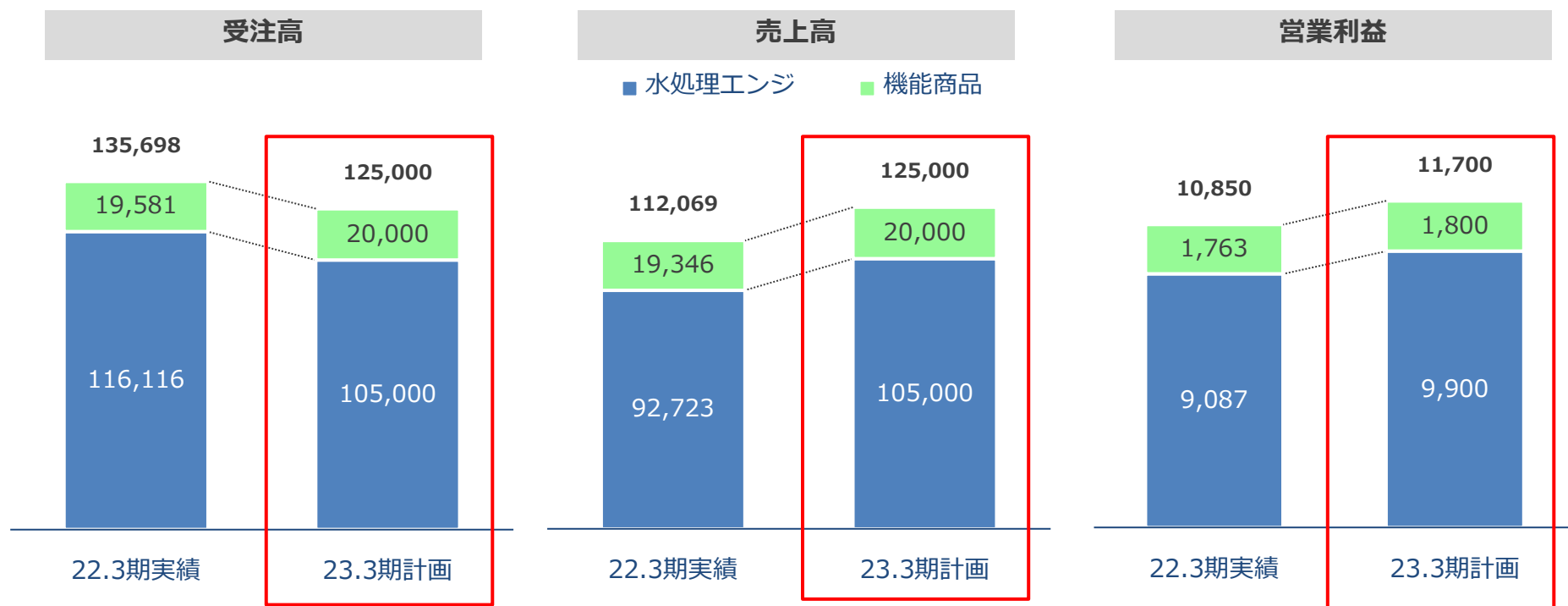
1. 2022年3月期 通期実績
2. 2023年3月期 通期計画
3. 中期経営計画
4. 会社概要

23年3月期通期計画：概況

受注は若干減少も高水準維持、売上・利益は増収増益を計画

国内外で大型案件が集中した前期に比べ受注は減少を想定も高水準の投資続く
前期までの受注案件の売上により売上高・営業利益は拡大を想定

(単位：百万円)



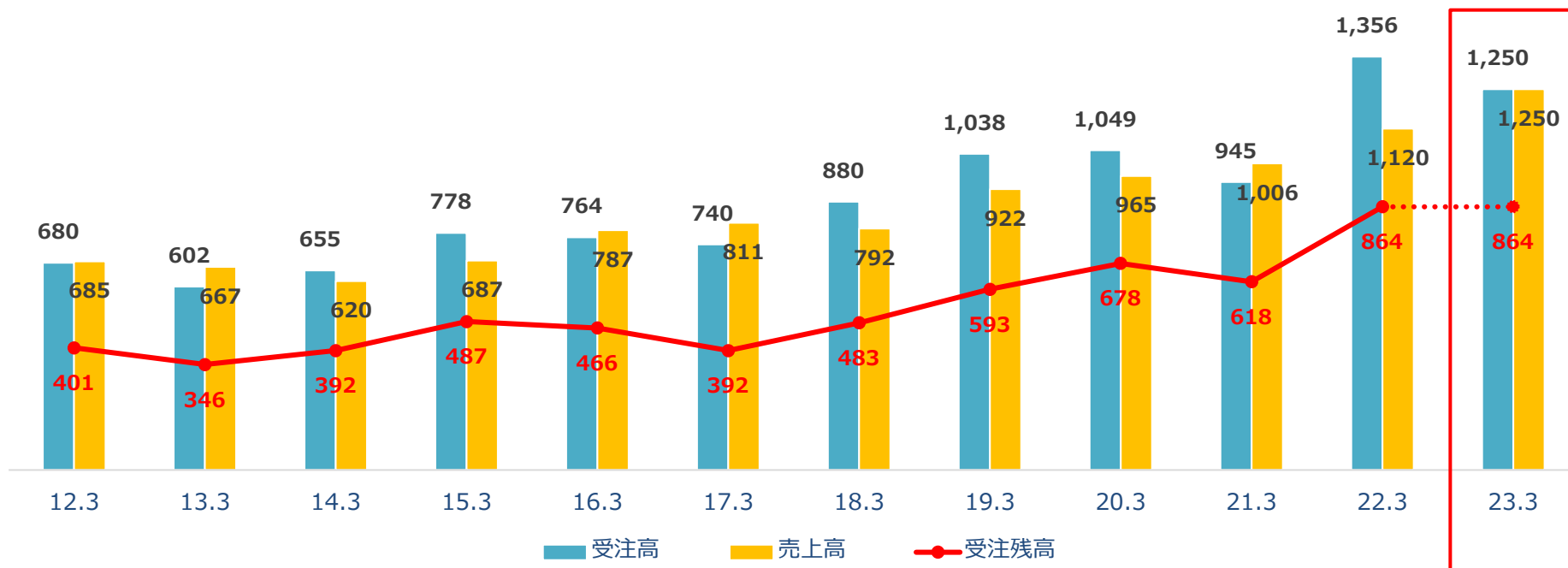
23年3月期通期計画：中長期的な業績の推移

受注拡大で受注残高水準、23年3月期も売上増見込む

18年3月期以降、半導体中心に電子産業分野の受注拡大が継続
大型プロジェクトは工期1～1.5年、受注は売上の先行指標

(単位：億円)

受注高・売上高・受注残高の推移



23年3月期通期計画：損益計算書

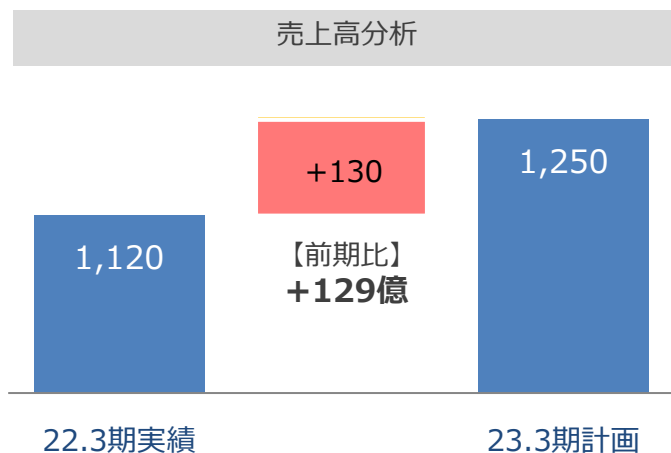
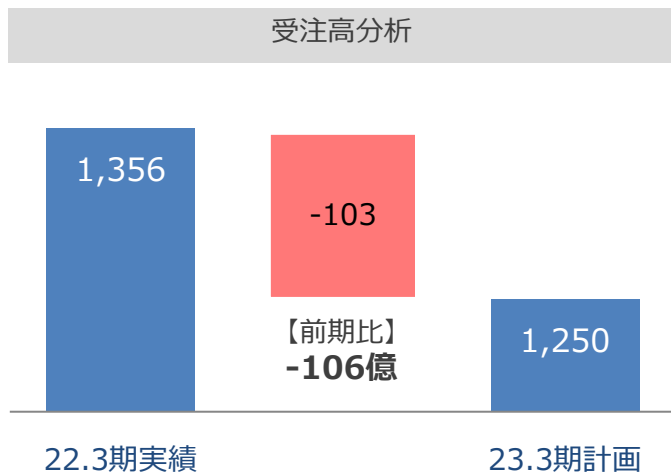
(単位：百万円)	22.3期		23.3期		前期比	
	上期実績	通期実績	上期計画	通期計画	上期	通期
受注高	58,903	135,698	70,000	125,000	+18.8%	-7.9%
売上高	50,001	112,069	60,000	125,000	+20.0%	+11.5%
売上総利益 (%)	12,404 24.8%	28,512 25.4%	13,000 21.7%	30,700 24.6%	+4.8%	+7.7%
販管費	8,632	17,662	9,000	19,000	+4.3%	+7.6%
営業利益 (%)	3,771 7.5%	10,850 9.7%	4,000 6.7%	11,700 9.4%	+6.1%	+7.8%
経常利益	4,193	11,545	4,000	11,700	-4.6%	+1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,696	9,210	2,800	8,200	+3.8%	-11.0%
ROE (%)	—	12.9%	—	10.6%	—	—

23年3月期通期計画：業績見通し

受注・売上	好調な電子産業分野で半導体などを中心とした大型投資が国内外で継続することを見込む。繰越受注残も高水準であり、現時点では工事スケジュールも順調な進捗を想定
利益面	プラントの売上拡大により利益率が若干低下も売上拡大の効果が上回り売上総利益は増益を計画、足元の価格上昇・円安の影響は織り込み済。人件費や海外の体制整備、研究開発投資・デジタル投資など販管費増も想定
リスク要因	エネルギーや資源価格の高騰、過度な円安の進捗による原材料・工事価格の上昇による利益率の低下や、原材料の供給不足・物流の遅延などサプライチェーンの混乱によって受注案件の工事進捗が遅れ、当社の売上・利益に影響を及ぼすおそれ

23年3月期通期計画：受注高・売上高分析

(単位：億円)



■ 電子産業

【受注高】

前期比：-106億（7.9%減）

好調だった前年の反動もあり減少想定も高水準の投資は継続。顧客の投資の規模や件数によっては想定を上回る可能性も。一方でエネルギー・資源価格等のインフレーションやサプライチェーンの混乱などのリスク影響も懸念

【売上高】

前期比：+129億（11.5%増）

半導体関連の高水準の受注継続と繰越受注残案件の工事進捗により電子産業分野を中心に売上拡大を計画

23年3月期通期計画：地域別受注高

受注高は前期大幅増の海外で反動も高水準の投資維持を想定

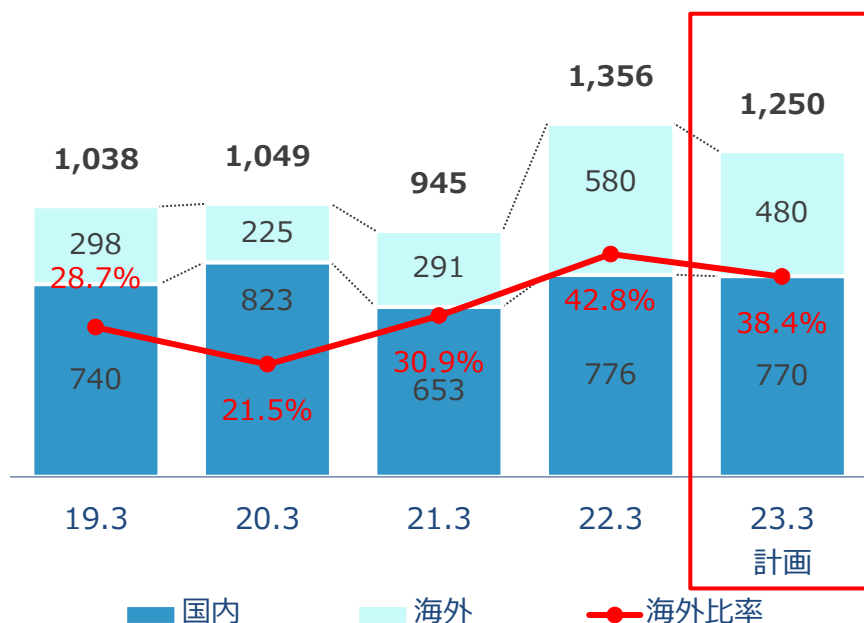
国内：台湾企業による国内での大型投資の受注を計画

海外：中国・米国は前期の反動減も台湾は高水準維持、マレーシアも拡大

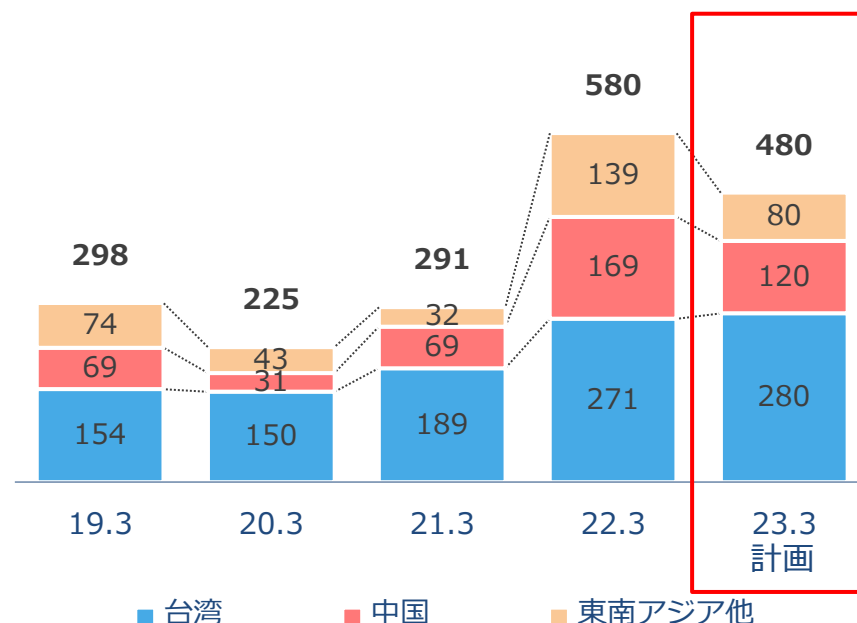
* 米国案件は東南アジア他を含む

(単位：億円)

受注高：国内・海外



受注高：海外地域別



23年3月期通期計画：地域別売上高

売上高は国内・海外とも繰越案件の工事進捗による売上増を計画

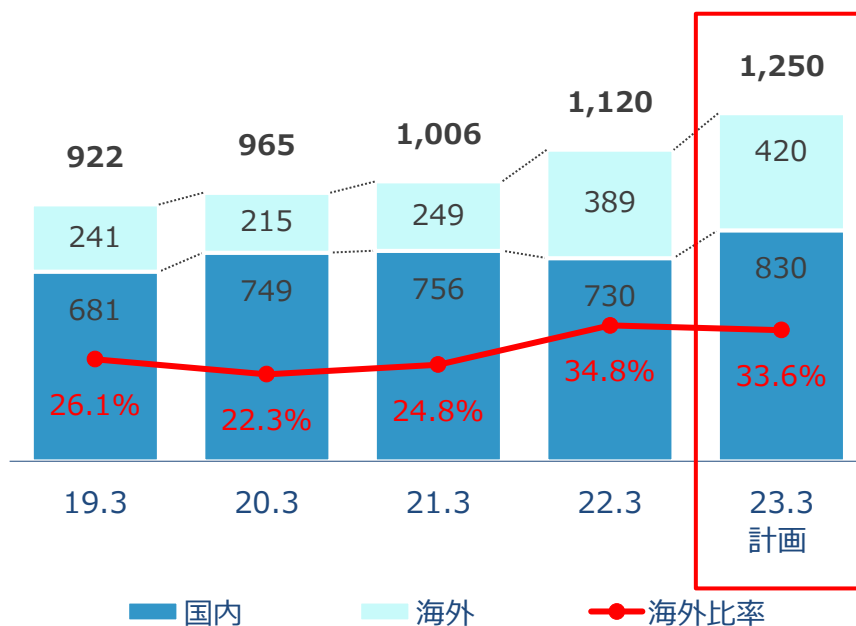
国内：半導体など電子産業を中心に受注案件の売上計上を計画

海外：好調な台湾・中国に続き、米国でも大型案件の売上計上進む

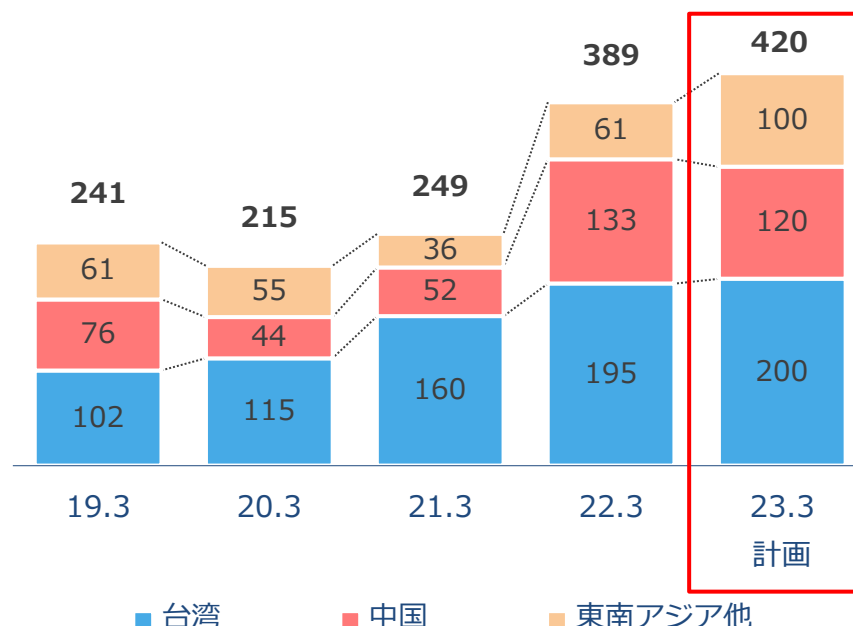
* 米国案件は東南アジア他を含む

(単位：億円)

売上高：国内・海外



売上高：海外地域別



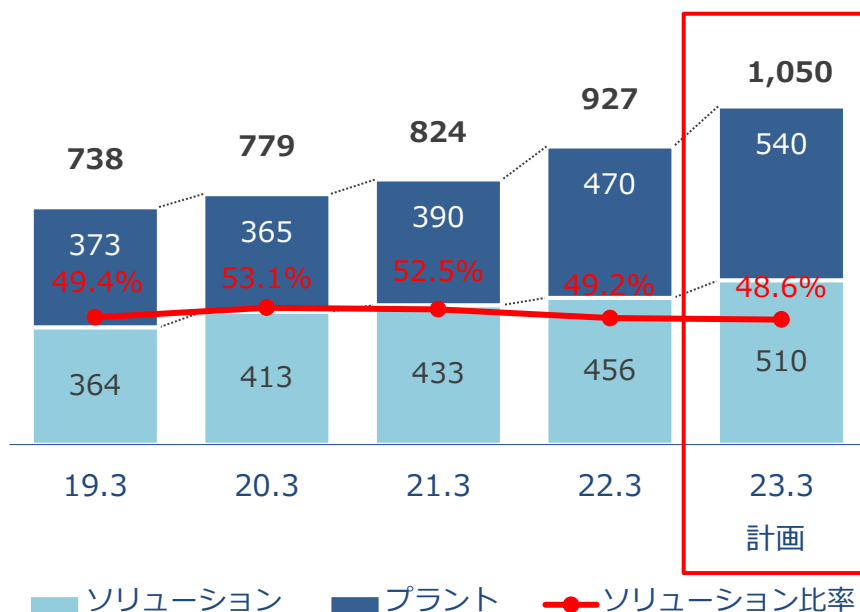
23年3月期通期計画：水処理エンジニア事業売上高

受注好調な電子産業分野が前年に続き大幅伸長を計画

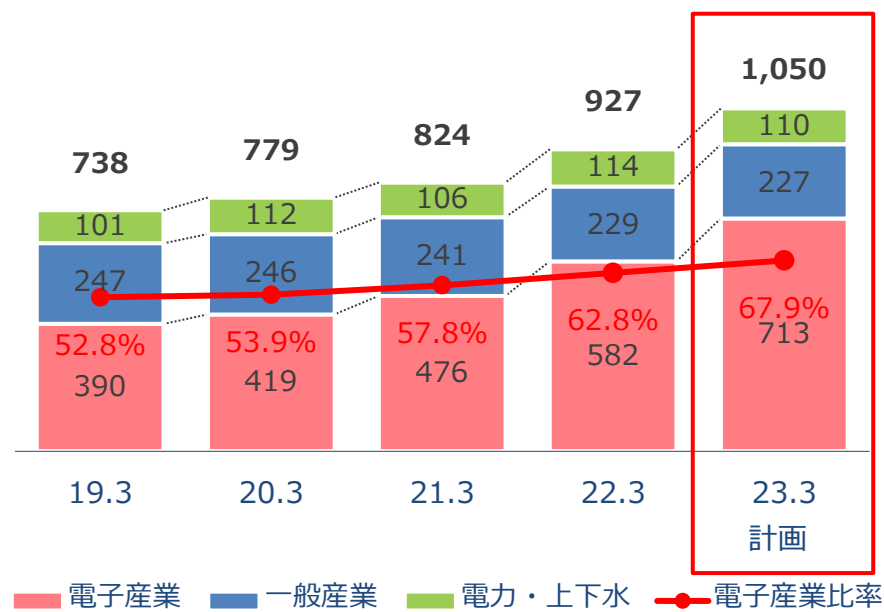
国内外で受注拡大続いた半導体向けの大型案件の売上が拡大
ソリューションでも大型の加工受託案件の契約開始が寄与

(単位：億円)

水処理エンジニア売上高：プラント・ソリューション



水処理エンジニア売上高：市場分野別



23年3月期通期計画：電子産業分野受注高

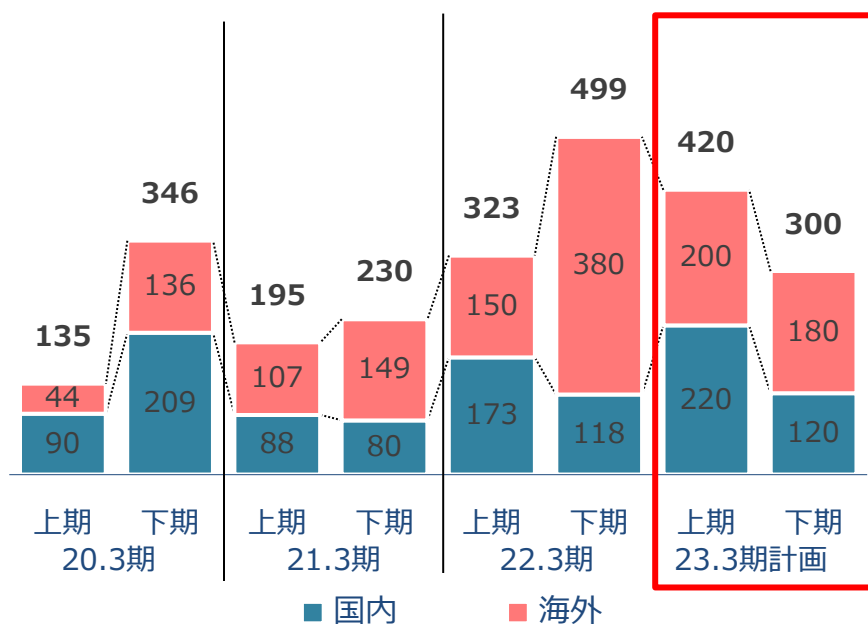
国内・海外とも上期に半導体関連の大型案件の受注を想定

国内：台湾系企業の国内投資やウェハー関連の投資などの受注を計画

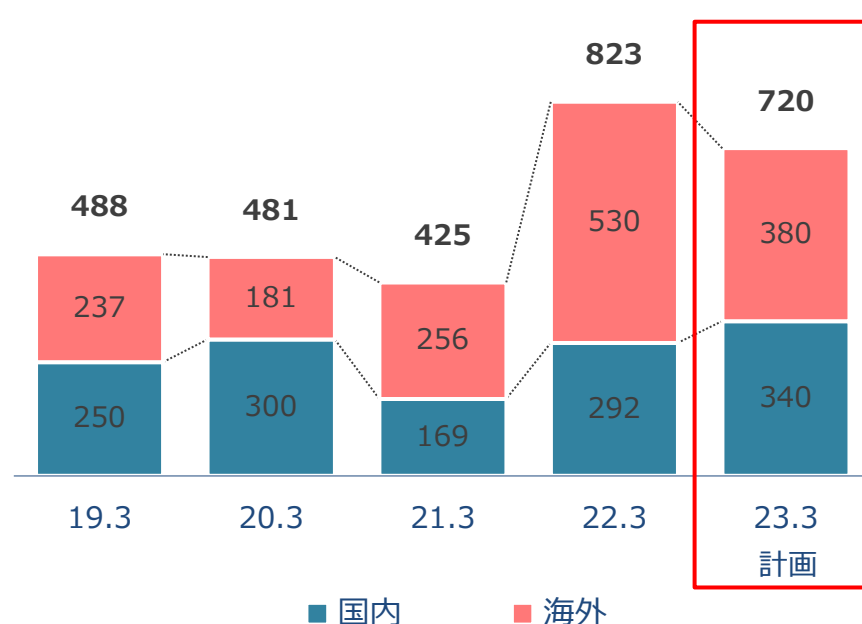
海外：台湾に加え、中国やマレーシアなどでも大型案件の受注を想定

(単位：億円)

電子産業分野：受注高（上下比較）



電子産業分野：受注高



23年3月期通期計画：電子産業分野売上高

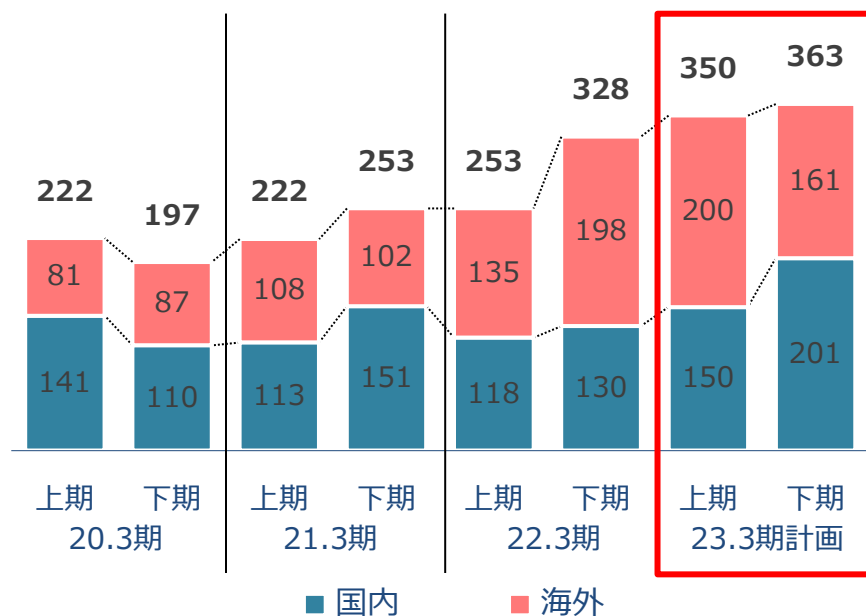
国内・海外とも繰越案件の売上による伸長を計画

国内：国内案件は比較的順調に工事が進捗、売上拡大を想定

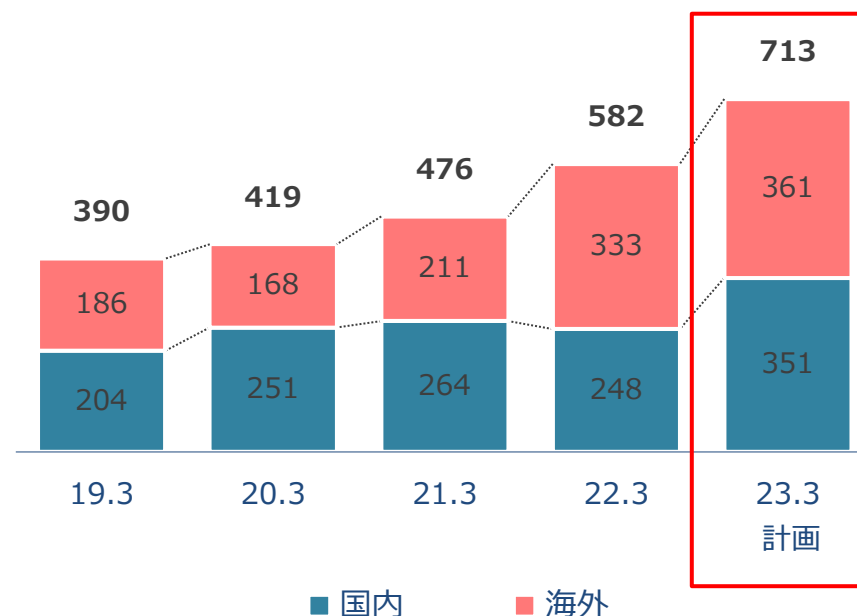
海外：一部の案件で工程見直しが影響も、案件増により売上も拡大

(単位：億円)

電子産業分野：売上高（上下比較）



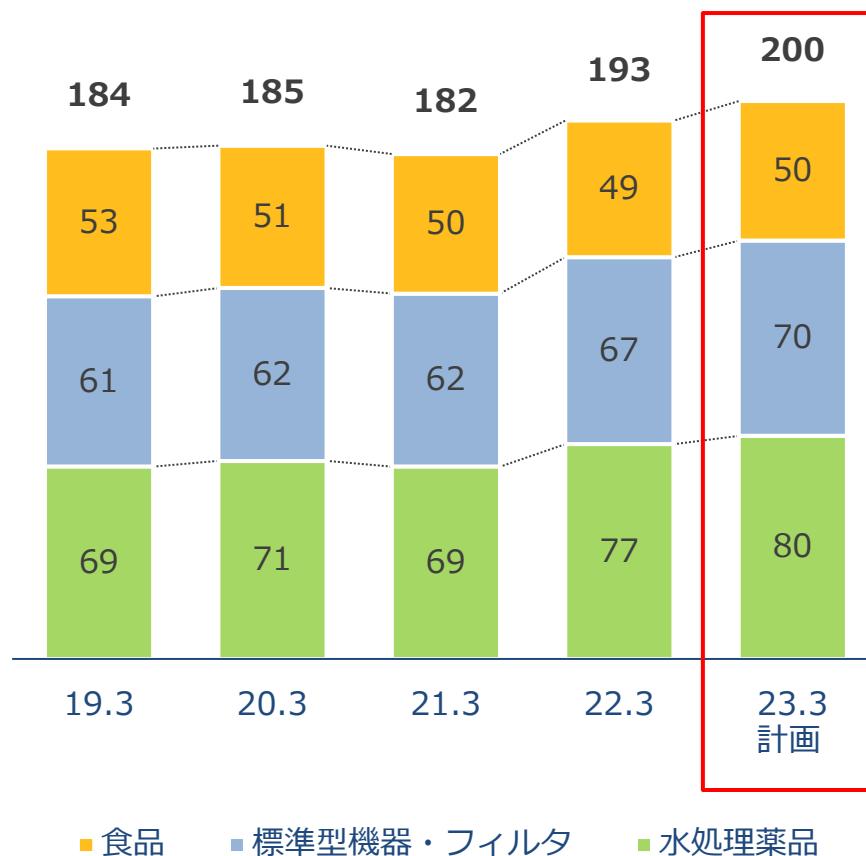
電子産業分野：売上高



23年3月期通期計画：機能商品事業売上高

(単位：億円)

機能商品事業売上高



■ 水処理薬品

電子産業向けの売上拡大に加え、台湾・中国など海外展開の再加速を計画

■ 標準型水処理機器・フィルタ

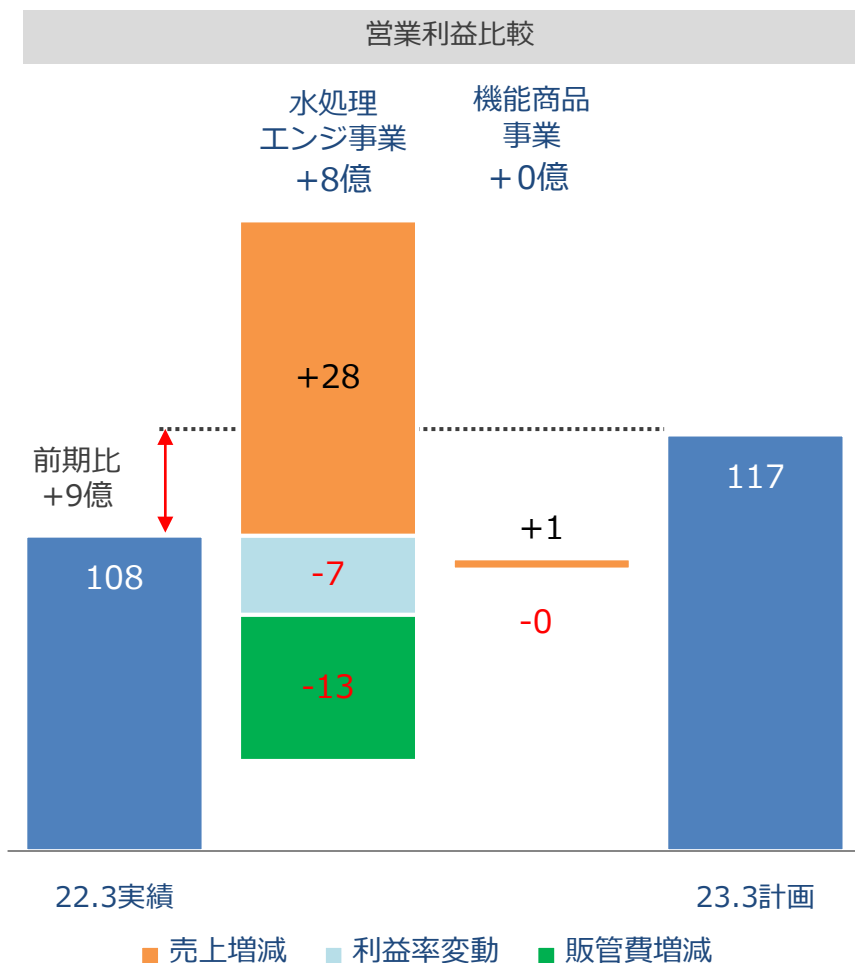
前期上市の「ピューリックμ（ミュー）」を医療・研究機関向けに展開。中国など海外での展開も強化

■ 食品

コロナ禍で停滞した新たな顧客の開拓・新商品の拡販に向けて再加速。売上の回復を目指す

23年3月期通期計画：営業利益

(単位：億円)



■ 前期比：+9億（7.8%増）

水処理エンジ事業：+8億（8.9%増）

プラントの売上割合拡大で利益率は若干の低下を想定も、電子産業分野中心に売上拡大による増益を計画
販管費は研究開発・デジタル投資加速、海外の体制整備などによる拡大を計画

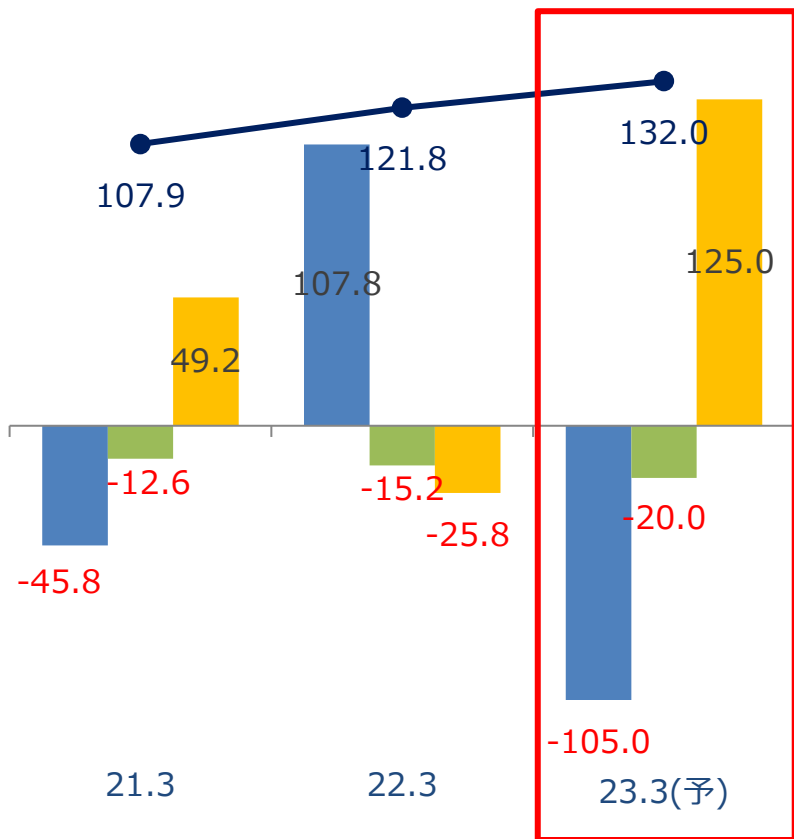
機能商品事業：+0億（2.1%増）

各分野とも売上の拡大を計画、特に台湾・中国など海外向けの事業展開を強化

23年3月期通期計画：キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

キャッシュ・フロー推移



■ 営業CF
 ■ 投資CF
 ■ 財務CF
 ● EBITDA
 (営業利益 + 減価償却費)

- 当社キャッシュ・フローは業績の動向に加え、大型プロジェクトの工事進捗・代金の回収状況が増減に大きく影響

【2023年3月期の主な動き】

- 営業キャッシュ・フローには設備保有型ソリューション案件への投資金額を含む25年3月期までに合計250億円程度の段階的な投資を想定。研究開発や海外体制、デジタル関連の経費拡大も想定
- 投資キャッシュ・フローにはつくば工場強化やデジタル・研究開発投資の拡大を計画
- 財務キャッシュ・フローは設備保有型案件への投資に向けた借入金の拡大を想定。配当総額も継続的に拡大。23年3月期は前期比25%増の19億円強を見込む

主な指標

	21年3月期 実績	22年3月期 実績	23年3月期 計画	開発センター 新実験棟
設備投資額 (百万円)	1,015	3,387	2,000	<p>約30億円を投じ開発センターに新実験棟を建設。22年3月までに建物が完成。次世代の超純水システムや分離精製技術の開発強化に取り組む</p>  <p>【新実験棟 写真】</p>
技術研究費 (百万円)	2,300	2,146	2,700	
減価償却費 (百万円)	1,212	1,332	1,500	
有利子負債 (百万円)	16,005	15,628	30,000	
従業員数 (人)	2,319	2,476	2,500	
年間配当金 (円)	114	160	160	
ROE (%)	11.1	12.9	10.6	

※設備投資には無形固定資産等への投資額を含んでおります

※年間配当金の23年3月期計画160円は、22年10月1日予定の株式分割（1株→4株）を考慮しない場合の配当額です

目次

1. 2021年3月期 通期実績
2. 2022年3月期 通期計画
- 3. 中期経営計画**
4. 会社概要

2022～2024年度 中期経営計画

【重点分野】 電子産業分野

大型案件の確実な受注・納入【日本・台湾・中国・米国】
競争力あるグローバル・バリューチェーンの構築

【成長地域】 中国・台湾市場

- 研究開発・ソリューション・生産体制の構築・整備
- 中国市場における電子産業分野以外への展開強化

【成長ドライバー】 ソリューションサービス

- デジタルソリューションサービスの基盤整備
- グローバルソリューション体制の整備と品質向上

研究開発

- 売上高の2.5%をめどに開発投資拡大
- 電子産業向けの次世代超純水システム
- 高度分離精製技術による新事業創出
- センシング&デジタル技術の強化
- オープンイノベーションの拡大

水処理薬品

- 薬品+装置+IoTなどパッケージサービスメニューの拡充
- 現地パートナーの開拓を強化し海外展開を拡大

機能材料

- グローバルサプライチェーンの構築と維持
- 差別化された機能材の開発、社会的価値を実現するビジネスモデルの創出

事業基盤の構築

エンジニアリング
体制の強化

ESG/SDGs
への取組み

安全・コンプライアンスの徹底

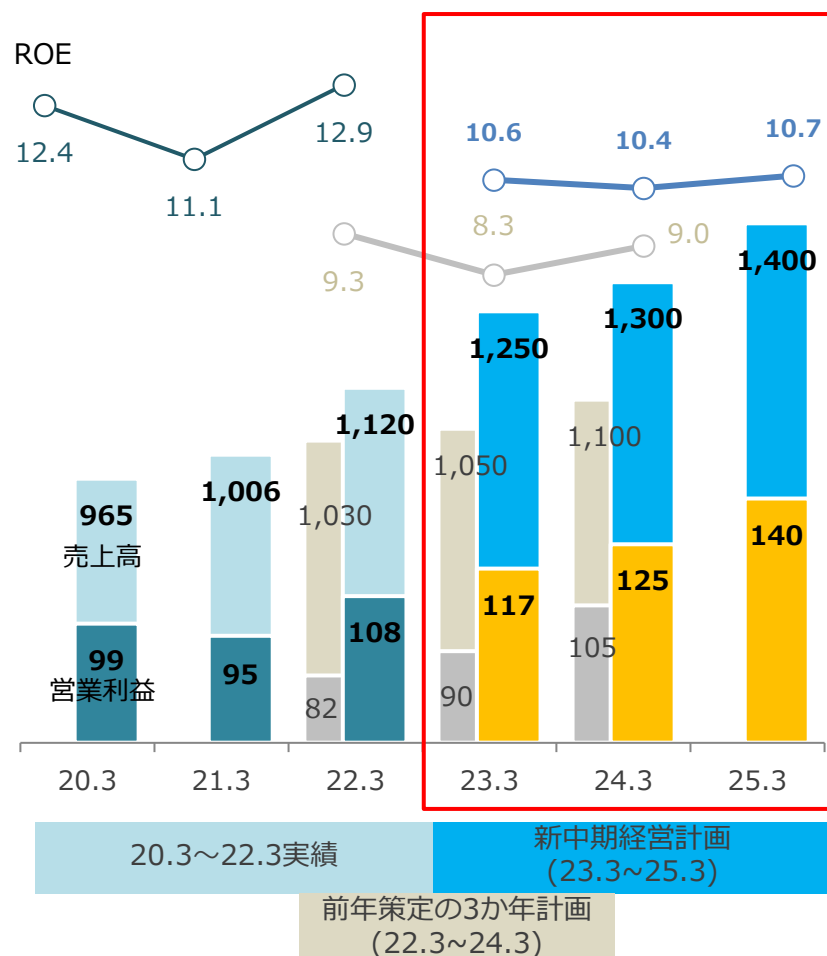
データ活用の
推進

人材の
育成・活用

中期経営計画：23年3月期～25年3月期計画

(単位：億円・%)

売上高・営業利益・ROEの推移



●売上高の拡大

活発な電子産業分野を中心に
1,400億円まで売上を拡大
大型案件の受注・納入に加え、
ソリューション事業も強化

●安定的な利益の計上

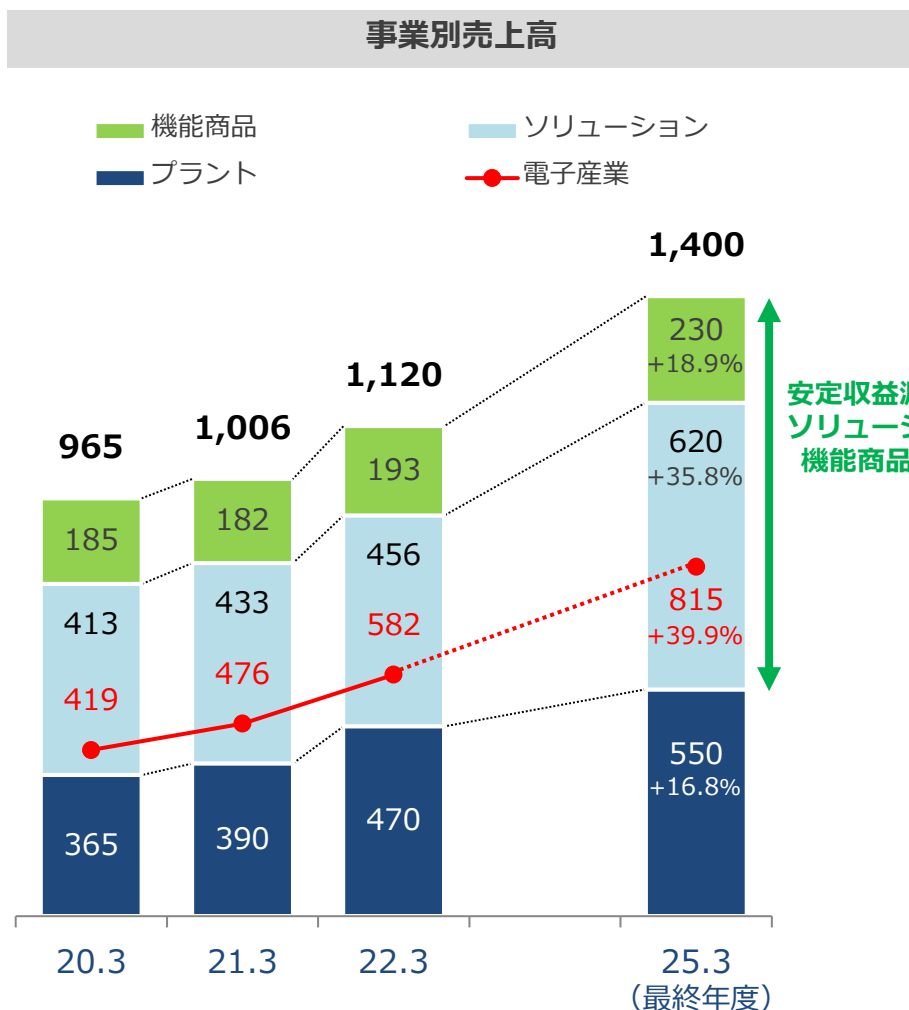
売上高営業利益率・ROEとも
安定的に10%以上を計上できる
収益体制を構築

●事業基盤の強化

事業の基盤となる人材の育成や
エンジニアリング体制の強化と共に、
社会的価値と顧客価値の実現を追求

中期経営計画：事業別売上高

(単位：億円・%)



●電子産業分野

プラント・ソリューションとも電子産業分野を中心に拡大

●プラント事業

日本・台湾・中国・米国で大型半導体プロジェクトを拡大

●ソリューション事業

国内で大型の加工受託案件開始
加えてソリューションサービスのデジタル化を強化

●機能商品事業

水処理薬品や小型機器を中心に海外での拡販を強化

安定収益源である
ソリューション・
機能商品を拡充

中期経営計画：重要な取組み

電子産業

国内外での大規模プロジェクトの受注・納入に加え、大型の設備保有型契約への投資(25年3月期までに約250億円)、米国での事業体制整備、台湾での研究開発体制、中国でのソリューション体制強化などに取り組む

海外体制強化

電子産業をターゲットとした米国・台湾・中国での体制強化に加え、イオン交換樹脂や水処理膜など機能材のグローバル・サプライチェーン、水処理薬品など機能商品の海外販売ネットワークなどの強化に向け、海外でのパートナーシップの強化やM&Aなどに取り組む

デジタル化推進

国内外のグループリソースを集約、自動運転や遠隔監視サービスに加え、センシング技術などを活用した設備の効率化・省エネ提案などデジタル・ソリューションサービスの創出を加速する

サステナビリティ・サービス

クローズドシステムなど水のリサイクル技術や、廃水や廃液などから有価物を回収するシステムなど、顧客の経済的価値と省エネ・脱炭素など社会的価値を両立できる技術・製品・サービスの開発・提供を加速

オルガノのサステナビリティ・サービス

排水からのフッ酸回収技術 エコクリスタ

半導体製造に用いられるフッ酸を工場排水から回収。高純度のペレットとして精製し、フッ酸の原料としてリサイクル



2014年度 (一社)産業環境管理協会
資源循環技術・システム表彰 経済産業大臣賞

循環型の水資源リサイクルシステム クローズドシステム

工場の排水を分別回収しリサイクル、雨水以外の排水をゼロに。不純物は脱水・乾燥しセメントの原材料として再利用



第24回日本水大賞 経済産業大臣賞を受賞の大分キャノン
マテリアル社に排水回収・処理設備を当社が納入
(引用：大分キャノン(株)水資源再利用活動
<https://www.oita-canon.co.jp/env/water.html>)

水の熱を利用した 省エネ・脱炭素 水熱利用システム



ヒートポンプ技術を活用し、工場等で使用される水の熱をエネルギーとして利用。50%以上の消費電力・CO2削減を実現

2016年度 省エネ大賞
省エネルギーセンター会長賞

冷却水処理剤 オルブレイド



当社開発の新殺菌成分を含む冷却水複合処理剤。工場などの空調用冷凍機の冷却水を最適処理し消費電力削減に貢献

2020年度 省エネ大賞
省エネルギーセンター会長賞

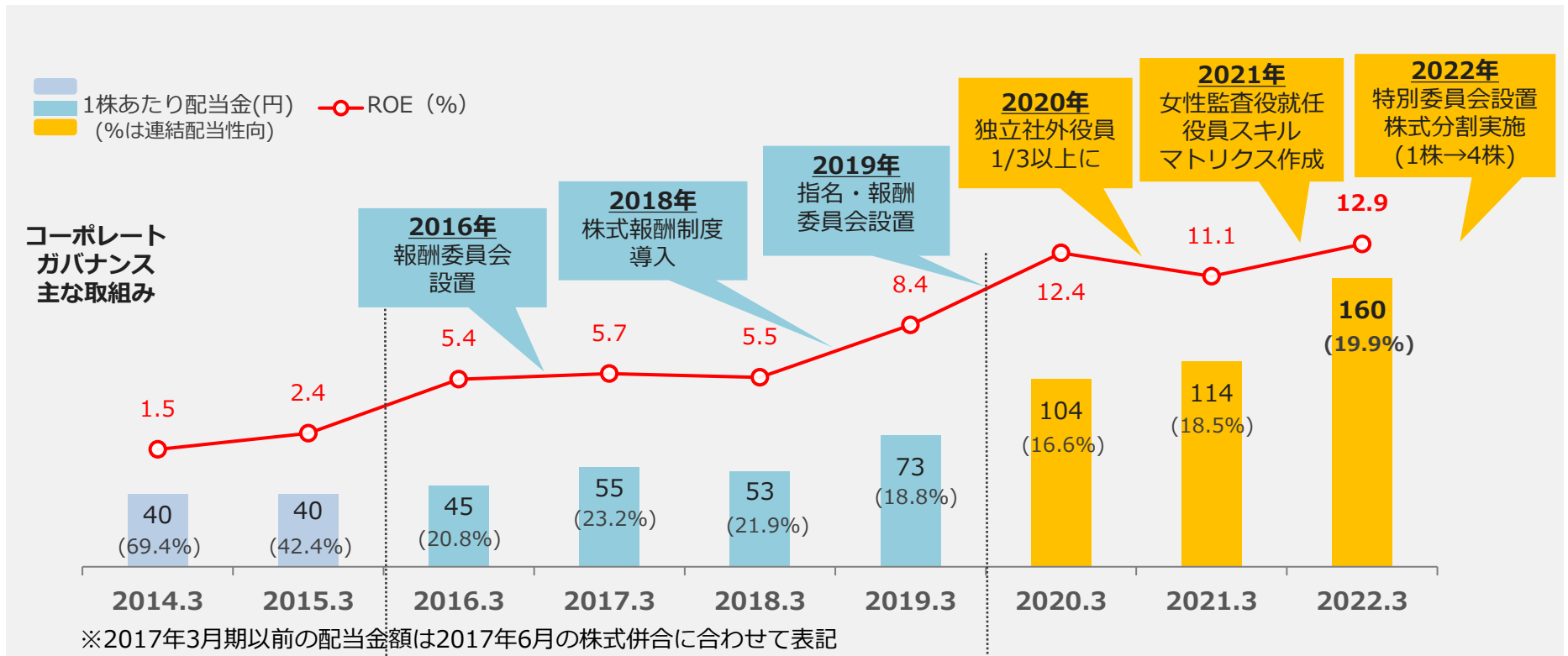
RO膜処理設備の 省エネソリューション オルスマートRO



運転管理・遠隔監視・薬剤を組合わせた独自のソリューションサービスにより、RO膜水処理設備の消費電力・CO2排出量を削減

2021年度 省エネ大賞
審査委員会特別賞

コーポレートガバナンス:取締役会の実効性確保に向けた取組み

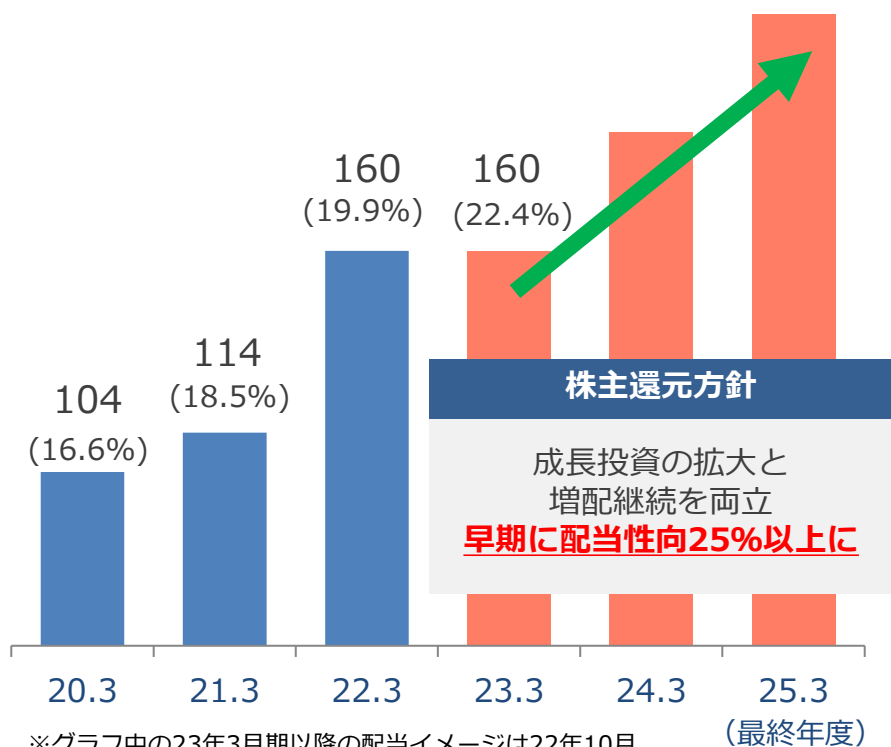


コーポレートガバナンス：株主還元・IR施策

(単位：円・%)

1株あたり配当金・配当性向の推移

～25年3月期までのイメージ



※グラフ中の23年3月期以降の配当イメージは22年10月
実施予定の株式分割を考慮せず想定しております

●株主還元方針

株主還元は配当中心に検討。
成長投資の拡大と増配継続を両立し、
早期に配当性向25%以上の水準へ

●株式分割の実施

2022年10月1日を効力発生日として
1株→4株の分割を予定。投資単位を
引き下げ、より投資しやすい環境の
整備・投資家層の拡大を図る

●IR対応の強化

機関・個人投資家向けの説明会等
実施し、対話の機会を拡充。担当
者の増員や英文情報など開示資料
の充実化も図る

コーポレートガバナンス：その他の取組み

サステナビリティ

・ サステナビリティをめぐる課題への対応

21年12月にサステナビリティ委員会を設置し、TCFD提言に沿った気候変動関連の情報開示に向け、Scope1,2及びScope3の排出量算出・目標設定に関する議論を推進

リスク管理

・ リスク管理体制の整備・強化

新たにリスク管理部門を設置し、内部監査部門を強化するなどグループ全体のリスク管理体制を整備。市場環境や地政学的なリスクも踏まえたリスクシナリオの想定や主要リスクの特定、モニタリングなど効果的な対応を進める

人材の育成・活用

・ ダイバーシティの推進

女性・外国人材が活躍できる会社に向けた人事制度改革に着手。経営幹部のスキル要件を整備しグループ横断的な人材活用・育成を加速

目次

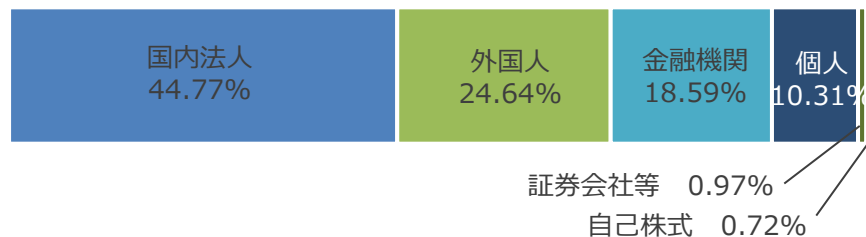
1. 2021年3月期 通期実績
2. 2022年3月期 通期計画
3. 中期経営計画
4. 会社概要

会社概要と株主構成

■ 会社概要

社名	オルガノ株式会社
本社所在地	東京都江東区新砂1丁目2番8号
設立	1946年5月1日
代表者	代表取締役社長 内倉 昌樹
資本金	8,225,499,312円
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
発行済株式総数	11,589,925株 (22年10月1日より1株→4株の株式分割を予定)
株主総数	4,103名 (2022年3月31日)

■ 株主構成



■ 大株主（上位10名）

(2022年3月31日現在)

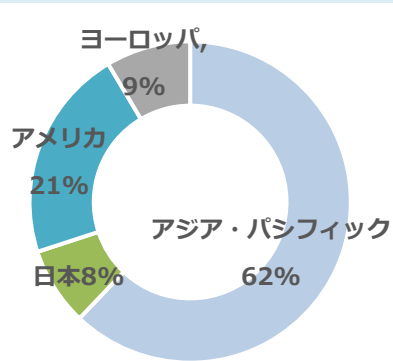
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー (株)	4,925	42.81
日本マスタートラスト信託銀行 (株) (信託口)	966	8.40
(株) 日本カストディ銀行 (信託口)	632	5.50
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	279	2.43
(株) みずほ銀行	200	1.74
KBC BANK NV - UCITS CLIENTS NON TREATY	153	1.33
ビービーエイチ ザ アドバイザーズ インナーサークル ファンド ツー コベルニク グロ オール キャップ ファンド	127	1.11
デイゼット プリバットバンク エスエー インベストメントフオンズ	110	0.96
エムエルアイ フォークライアントジェネラル オムニノンコラテラルノントリーディーピービー	102	0.89
ビーエヌワイエム アズ エージーティ クライアントツ 10 パーセント	91	0.79

※持株比率は自己株式 (84,905株) を控除して計算しております

オルガノグループ各社



地域別半導体生産シェア
(2021年 WSTS調べ)



アメリカに現法設立(21年9月)

これまで日本・中国・台湾など
東アジアやマレーシアなど電子産業
分野の集積地を中心に進出

顧客工場の進出に合わせて2021年
9月に米国現法を設立、アリゾナに拠点を
設置。納入体制を整備するとともに新たな
顧客への営業展開も計画

【日本】

オルガノ
オルガノプラントサービス
オルガノエコテクノ
オルガノフードテック
オルガノアクティ
ホステック
東北電機鉄工(※)

【台湾】

オルガノ・テクノロジー

【中国】

オルガノ (蘇州)

【マレーシア】

オルガノ (アジア)

【インドネシア】

ラウタン・オルガノ・ウォーター

【ベトナム】

オルガノ (ベトナム)

【タイ】

オルガノ (タイランド)

【米国】

オルガノUSA

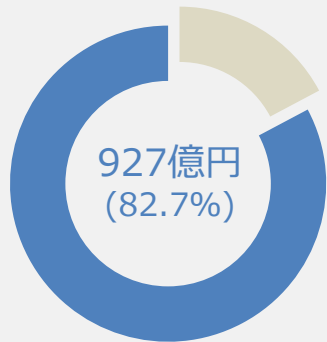
【シンガポール】

オルガノ (シンガポール)

(※)は持分法適用会社、下線は非連結子会社

事業概要

水処理エンジニアリング事業



プラント事業



純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

ソリューション事業

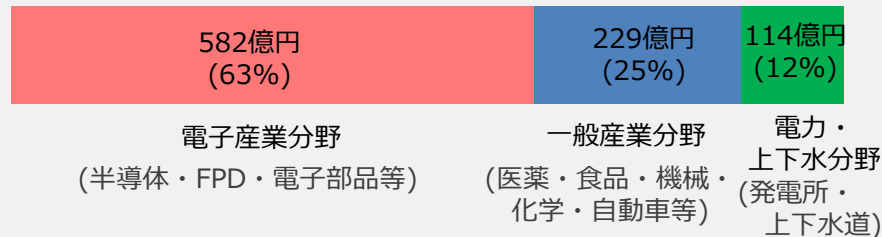


設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

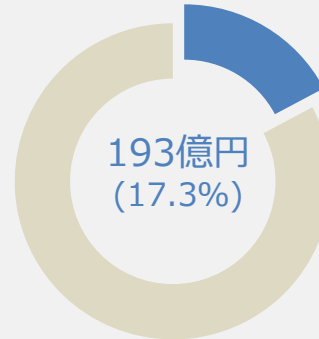
事業別売上高



顧客分野別売上高



機能商品事業



水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

標準型水処理機器・フィルタ事業



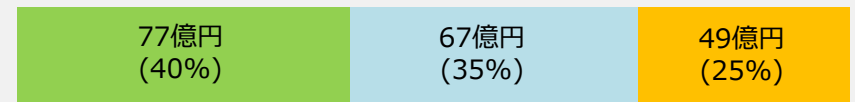
純水・超純水装置
浄水フィルタ

食品事業



食品添加剤・加工剤
食品素材

事業別売上高・主な顧客分野



水処理薬品事業

(電子・一般・
電力/上下水・
ビル/商業施設)

標準型水処理機器・ フィルタ事業

(医療/研究機関・
製造業・外食/
コンビニ)

食品事業

(食品/飲料・
介護/健康食品)

※金額は22.3期売上高、%は売上構成比率

オルガノグループの歩み

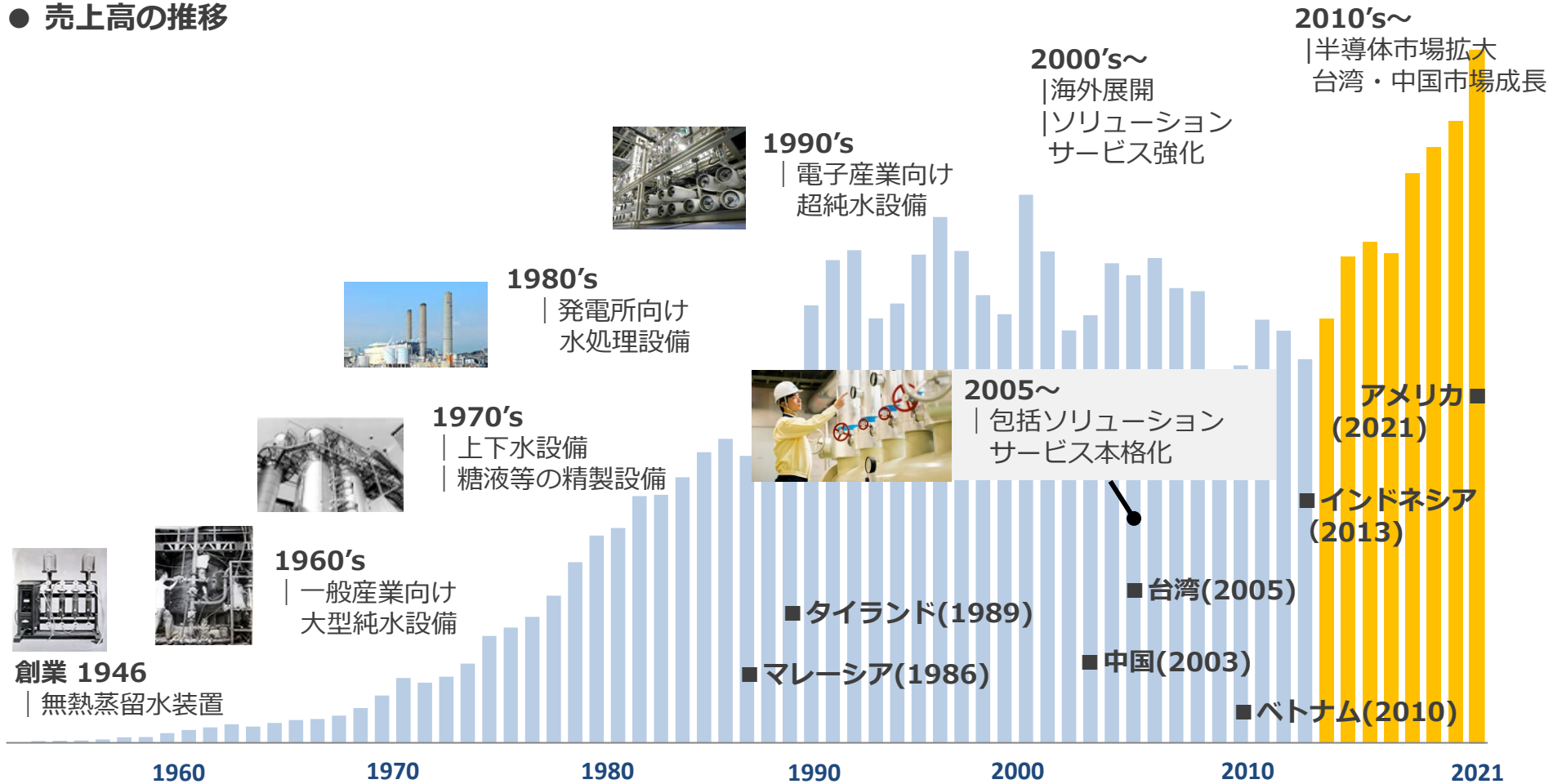
創業期

成長期

成熟期

飛躍期

● 売上高の推移



お問い合わせ先

経営統括本部 経営企画部

TEL : 03-5635-5111 / FAX : 03-3699-7240

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

